現場に役立つ日本語教育研究 6

# 語から始まる教材作り

シリーズ監修 山内博之 編者 岩田一成

Kurosio
くろしお出版

現場に役立つ日本語教育研究 6

# 語から始まる教材作り

シリーズ監修 山内博之 編者 岩田一成

くろしお出版

16:42 11/03/2023 PDF.js viewer



# CONTENTS

現場に役立つ日本語教育研究 6　目次

まえがき　岩田一成　iii

第一部　語彙指導を支える知恵と工夫

第1章 話題による日本語教育の見取り図（山内博之）……3

第2章 スタンダードを利用した
タスク・ベースの言語指導（TBLT）（小口悠紀子）……17

第3章 語彙習得を促す「話題別読解」の提案（橋本直幸）……31

第4章 類義語分析のためのチェックリスト（建石始）……45

第5章 語彙に着目した
日本語教科書作成プロセスの歩み（田中祐輔）……59

第二部　教材案Ⅰ：コース単位で利用できるアイディア

第6章 初級語彙の学習負担を減らす工夫と教材化（岩田一成）77

第7章 スタンダードを利用した語彙の教材化（山内博之）……91

第8章 初級漢字語の教材化（本多由美子）……105

第9章 読むことを通じてことばの力を伸ばす
語彙学習支援ツールと教材化（柳田直美）……121

第10章 現場指導（OJT）における
看護師養成と教材化（嶋ちはる）……135

lib.haui.edu.vn/opac80/EDetail.aspx?id=6232&f=fulltext&v=%u8a9e%u304b%u3089%u59cb%u307e%u308b%u6559%u6750%u4f5c%u308a%… 5/11

16:42 11/03/2023 PDF.js viewer



## 第三部　教材案Ⅱ：授業単位で利用できるアイディア

第11章 コロケーションリストの教材化（中俣尚己） 153
第12章 国語科教育のためのオノマトペの教材化（中石ゆうこ） 167
第13章 感動詞の教材化（小西円） 183
第14章 言語テスト作りを応用した形容詞の教材化（渡部倫子） 199
第15章 多義語の教材化（麻生迪子） 215
第16章 語彙習得研究の成果を踏まえた震災関連語彙の教材化（小口悠紀子・畑佐由紀子） 233
あとがき　山内博之　247
執筆者紹介　253

lib.haui.edu.vn/opac80/EDetail.aspx?id=6232&f=fulltext&v=%u8a9e%u304b%u3089%u59cb%u307e%u308b%u6559%u6750%u4f5c%u308a%… 6/11

16:42 11/03/2023 PDF.js viewer



# まえがき

岩田一成

## 1. はじめに

唐突ではあるが、中国のレストランで注文した料理がどうしても食べきれない状況（かつ、もったいないから置いて帰りたくないとき）を想定していただきたい。一言「打包（ダーパオ）」と言えば、お持ち帰り用のタッパーを用意してくれる。この時、格関係、テンス、アスペクト、ボイスなどという文法カテゴリーは知らなくてもかまわないのである。コミュニケーション場面において、単語が一つ言えることで意図が相手に伝わるなんてことはよくある。文法の重要性を否定するつもりはないが、語彙の重要性はもっと強調してもいいのではないかと考えている。本書は、「語彙を中心にして教材を作ってみたらどうなるか」という共通課題で取り組んだ論文集である。本書で伝えたいメッセージは、「語彙は文法導入のおまけではない」ということである。

現在、語彙ではなく文法を中心に教材が作られているという背景がある。岩田（2014）では、1990年代後半以降の主要初級教材を対象として採択されている動詞関連の文法項目をカウントし、全体の93%（53項目）は教材間で横並び採択（不採択）を行っていることを明らかにしている。この採択初級文法は太平洋戦争中にシラバスが作られて以来ほとんど変わっていないことも明らかになっている（岩田2015）。つまり初級文法は、ここ70年間変わ

lib.haui.edu.vn/opac80/EDetail.aspx?id=6232&f=fulltext&v=%u8a9e%u304b%u3089%u59cb%u307e%u308b%u6559%u6750%u4f5c%u308a%… 7/11

16:42 11/03/2023 PDF.js viewer



ることなく規範を守って初級教材に採択されてきているのである。初級総合教材に上級文法が紛れ込むなどということは絶対にありえない。

一方、語彙は教材間で全く一致していない。戦後の初級総合教材 21 種 34 冊を分析した田中（2016）は 8,306 項目の語彙を抽出して分析を行っており、結果は以下のとおりである。

初級教材の語彙調査 8,306 項目（田中 2016）

| | |
|---|---|
| 全教材で一致して使っている語彙 | |
| 138 | 全体の 1.7% |
| 半数以上の教材が採用している語彙 | |
| 875 | 1 割程度 |
| 1 種類の教材にしか出現しない語彙 | |
| 4,300 | 全体の半数以上 |

1990 年以降の主要初級教材 8 種に絞ってみても、語彙の全体一致は 9.6% しかないことがわかっている（今西・神崎 2008）。それら 8 種の初級教材には旧日本語能力試験の 4 級語彙が 705 語採用されているが、全体一致は 314 語しかないことも同じ論文で指摘されている。初級教材は初級語彙を意識しているわけではないことがわかる。また、初級で一番普及している『みんなの日本語（第 2 版）』には「網棚、暗証番号、受付、駅員、置き場」といった旧日本語能力試験の級外語彙の他、1 級・2 級語彙がたくさん入っており、初級教材には中上級語彙が入っていることもわかる。このように、語彙に関しては各教材がそれぞれの判断で独自に選んでいることになる（本書第 5 章の田中論文も参照）。

本シリーズ 1 巻の庵・山内（編）（2015）で文法シラバスを見直す議論から始めて、本書は将来のあるべき姿「語彙重視の日本語教育」を提案する形でシリーズを締めくくることになる。本シリーズの 2 巻である森（編）（2016）でニーズ別の語彙リストが公開され、山内（編）（2013）『実践日本語教育スタンダード』（以後‘スタンダード’と呼ぶ）では膨大な語彙が話題別・タスク別に整理され、語彙中心の教材を議論・作成する環境は整いつつある。今、まさに語彙と教材の議論をする時期が到来しているのである。本書が、「語彙重視の日本語教育」を現場のみなさまと共有するきっかけになれば、幸いである。

lib.haui.edu.vn/opac80/EDetail.aspx?id=6232&f=fulltext&v=%u8a9e%u304b%u3089%u59cb%u307e%u308b%u6559%u6750%u4f5c%u308a%… 8/11

16:42 11/03/2023 PDF.js viewer



## 2. 本書の構成

本書には以下の16本の論文が掲載されている。以下、この順で各論文について簡単に解説していく。

第一部　語彙指導を支える知恵と工夫
第1章　話題による日本語教育の見取り図　(山内博之)
第2章　スタンダードを利用したタスク・ベースの言語指導 (TBLT)
(小口悠紀子)
第3章　語彙習得を促す「話題別読解」の提案 (橋本直幸)
第4章　類義語分析のためのチェックリスト (建石始)
第5章　語彙に着目した日本語教科書作成プロセスの歩み (田中祐輔)
第二部　教材案Ⅰ：コース単位で利用できるアイディア
第6章　初級語彙の学習負担を減らす工夫と教材化 (岩田一成)
第7章　スタンダードを利用した語彙の教材化 (山内博之)
第8章　初級漢字語の教材化 (本多由美子)
第9章　読むことを通じてことばの力を伸ばす語彙学習支援ツールと教材化 (柳田直美)
第10章　現場指導 (OJT) における看護師養成と教材化 (嶋ちはる)
第三部　教材案Ⅱ：授業単位で利用できるアイディア
第11章　コロケーションリストの教材化 (中俣尚己)
第12章　国語科教育のためのオノマトペの教材化 (中石ゆうこ)
第13章　感動詞の教材化 (小西円)
第14章　言語テスト作りを応用した形容詞の教材化 (渡部倫子)
第15章　多義語の教材化 (麻生迪子)
第16章　語彙習得研究の成果を踏まえた震災関連語彙の教材化
(小口悠紀子・畑佐由紀子)

*第二部・第三部の各論文で作成されている教材例は、くろしお出版のウェブサイト (http://www.9640.jp/genba/) でダウンロードできる。

lib.haui.edu.vn/opac80/EDetail.aspx?id=6232&f=fulltext&v=%u8a9e%u304b%u3089%u59cb%u307e%u308b%u6559%u6750%u4f5c%u308a%… 9/11

16:42 11/03/2023 PDF.js viewer



## 3. 各章の紹介

### 第１章　話題による日本語教育の見取り図（山内博之）

この論文は、100の話題を難易度順に並べることで、初級から上級までのロードマップが描けるという壮大な提案をしている。この前段階の作業として'スタンダード'で5,495の名詞に「具体度」「親密度・必要度」という基準でラベルを貼って100の話題に振り分けている。それぞれの話題が抱える名詞の「具体度」「親密度・必要度」を点数化することで難易度順を設定している。より具体的で親密度や必要度が高い名詞を多く抱える話題は初級から利用できるという発想である。こういった話題中心の大きな見取り図を示しつつ、初級では文法に重点を置き、中級ではタスクに重点を置く形で全体像を進めることを提案している。論文では初級における具体的な教授項目にまで踏み込んでその組み立て方が例示されている。

### 第２章　スタンダードを利用したタスク・ベースの言語指導（TBLT）（小口悠紀子）

この論文は、タスク・ベースの言語指導（TBLT）に注目して語彙の教育を考えようとするものである。タスク・ベースの言語指導におけるタスクの定義は、授業の序盤で習った文型を使用するための活動とは明確に区別される。それは意味に焦点を当てた真正性の高いやりとりであり、タスクの遂行には語彙の重要性が明らかである。タスクジェネレーターを紹介することでタスクの設定方法を理論的に論じる一方、中級教材の具体例を提案することで具体的な実践への提案も行っている。第１章で示された話題の難易度を利用している点、中級レベルをタスクで行おうと提案している点において、第１章の山内論文の延長線上にある。

### 第３章　語彙習得を促す「話題別読解」の提案（橋本直幸）

この論文は、語彙の習得を促進するために「話題別読解」という活動を提案しようとしている。「話題別読解」とは、共通の話題（topic）の読み物をまとめて読むものである。この提案を教室内で具体的に応用できるように、既存教材の膨大なデータに、話題という横串を刺していくつかのカテゴリー

lib.haui.edu.vn/opac80/EDetail.aspx?id=6232&f=fulltext&v=%u8a9e%u304b%u3089%u59cb%u307e%u308b%u6559%u6750%u4f5c%u308a… 10/11